

編集後記

日本機械学会 技術と社会部門 ニュースレターNo.42の発行にあたり

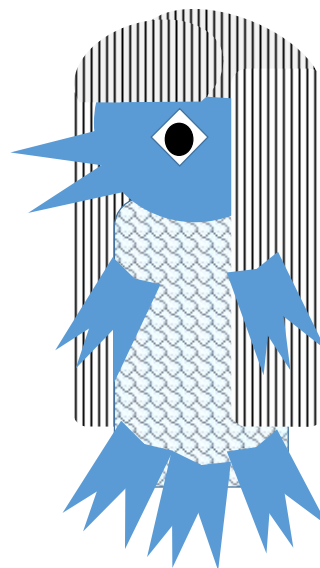
第98期の広報委員会委員長をさせていただいております福山大学の関根でございます。

2020年は「コロナに振り回された」といった感じで、いつの間にか11月になってしまいました。世界中で外出が制限されるようになったことから、航空機や鉄道、自動車などといった「人の移動」に係わる機械や遊園地の遊戯施設のような「人を楽しませる」機械など、様々な機械も、コロナ禍のために非常に大きな打撃を被ることとなってしまいました。「人が移動しなくなった」代わりに、在宅ワークが増え、会議は「オンライン会議」に、買い物は「インターネット通販」が多くなりました。とはいえ、世の中のすべてが「オンライン会議」や「インターネット通販」などに取って代わられる訳ではないように思われます。「オンライン会議」では“わからないこと”や“出来ないこと”もあり、どうしても「人の移動」は必要となります。コロナ禍は、「いずれは去る」ものですので、「人の移動」に係わる機械や「人を楽しませる」機械は、「世の中にとって必要とされる」機械であり続けるものと思います。

今号では、年次大会での「産業考古学：ガラ紡機の技術的特徴とガラ紡遺産」・「戦後の技術開発史：経の糸と緯の糸 布を織る技術の変遷」、高速バスの黎明期における運転視界の研究に用いられた実験車両・三菱MAR820型改造車、道北唯一の技術系高等教育機関である旭川工業高等専門学校の記事を掲載させていただきました。読者の皆様にもご興味をもていただければ幸いです。コロナ禍が一日も早く終息することを心よりお祈り申し上げます。

2020 年度広報委員会委員長 関根 康史（福山大学）。

コロナ禍が
一日も早く
終息することを
心よりお祈り
申し上げます。



発行： 一般社団法人 日本機械学会
The Japan Society of Mechanical Engineers
技術と社会部門
部門長中田俊彦（東北大学）
事務担当 野口 明生

2020年11月7日発行
ISSN 2185-3177

編集： 第98期 広報委員会
委員長： 関根 康史（福山大学）
幹事： 大根田浩久（弓削商船高等専門学校）
委員： 筒井 壽博（弓削商船高等専門学校）
高藤 圭一郎（横浜国立大学）
滝谷 俊夫（Hitz 日立造船）
小宮 聖司（神奈川工科大）
加藤 義隆（大分大学）
吉田 敬介（九州大学）

日本機械学会技術と社会部門ニュースター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースターNo.42

(C)著作権:2020 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門